

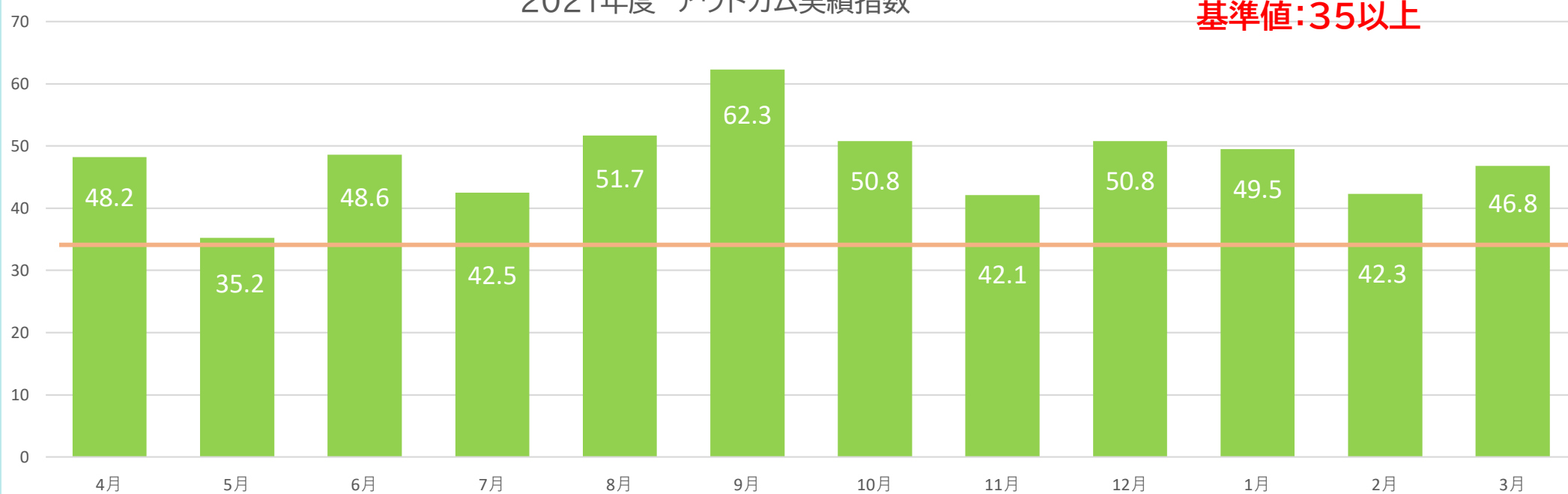
医療法人社団鶴友会 鶴田病院 回復期リハビリテーション病棟

～ クリニカルインディケーター・特色のご紹介～
(2021年4月～2022年3月分)



2021年度 アウトカム実績指数

基準値:35以上



確かな効果につながるリハビリテーションの提供

下記の指標が示す通り、各項目で回復期リハビリ病棟として一定程度の基準をクリアしております。

- ①重症患者割合 **37.0%** ②重症患者回復割合 **64.0%** ③リハ平均提供単位数 **4.9単位**
④アウトカム実績指数 **47.6**(2021年4月～2022年3月退院患者)

実績指数とは、FIM 得点の改善度を患者の入棟時の状態および在院日数を踏まえて指数化したものです。

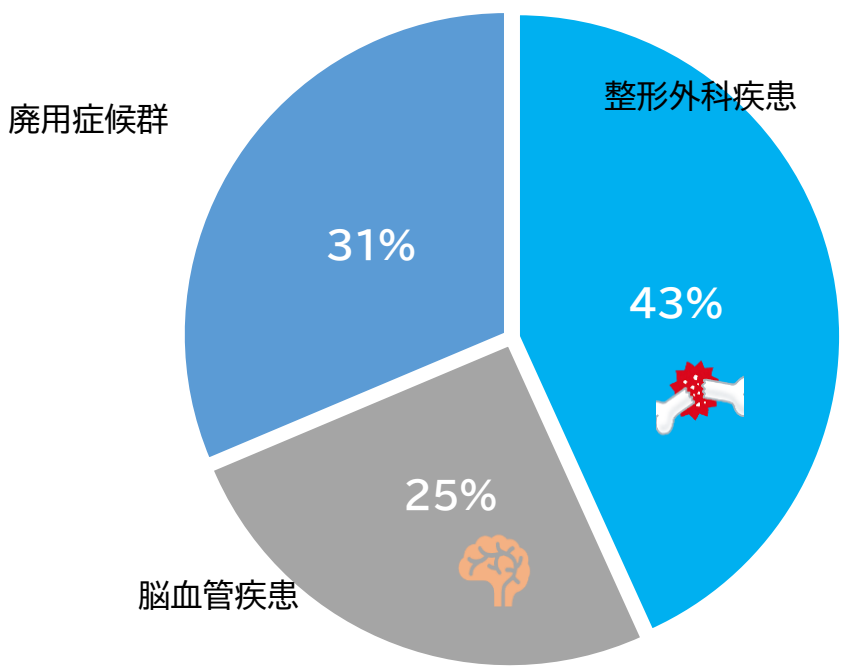
(退棟時のFIM 運動項目の得点- 入棟時のFIM 運動項目の得点)

(各患者の入棟から退棟までの日数÷患者の入棟時の状態に応じた算定上限日数)

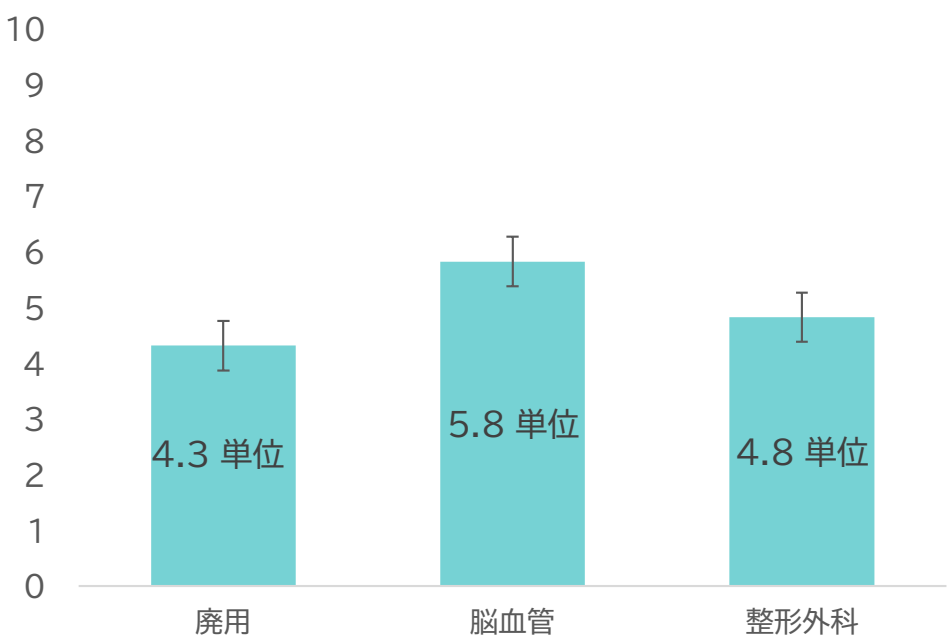
厚労省の示す基準では、実績指数が「27 以上」であれば、一定の基準以上のリハビリテーションが提供できているとされます。

疾患別リハビリテーションアウトカム

疾患別割合

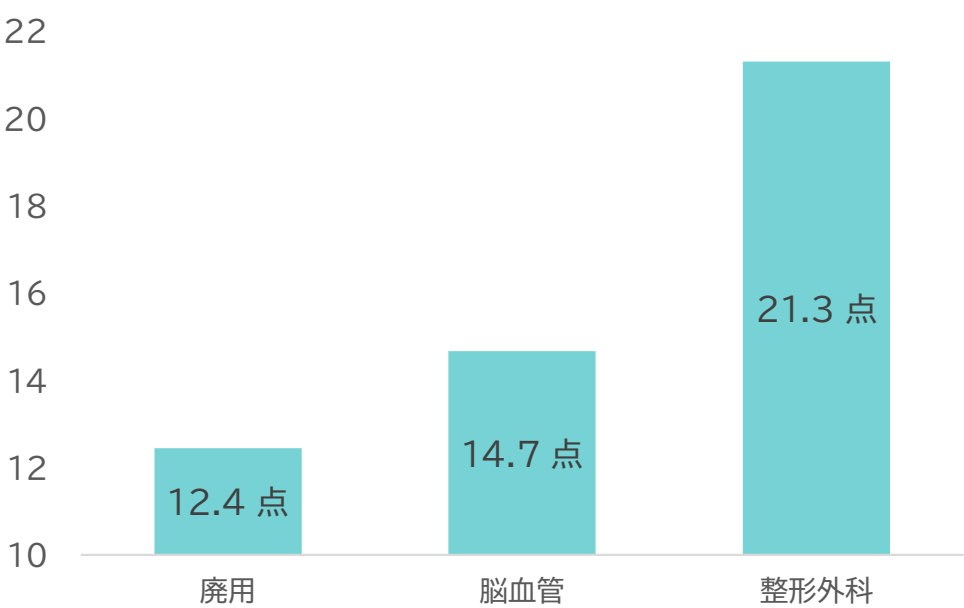


平均提供単位数

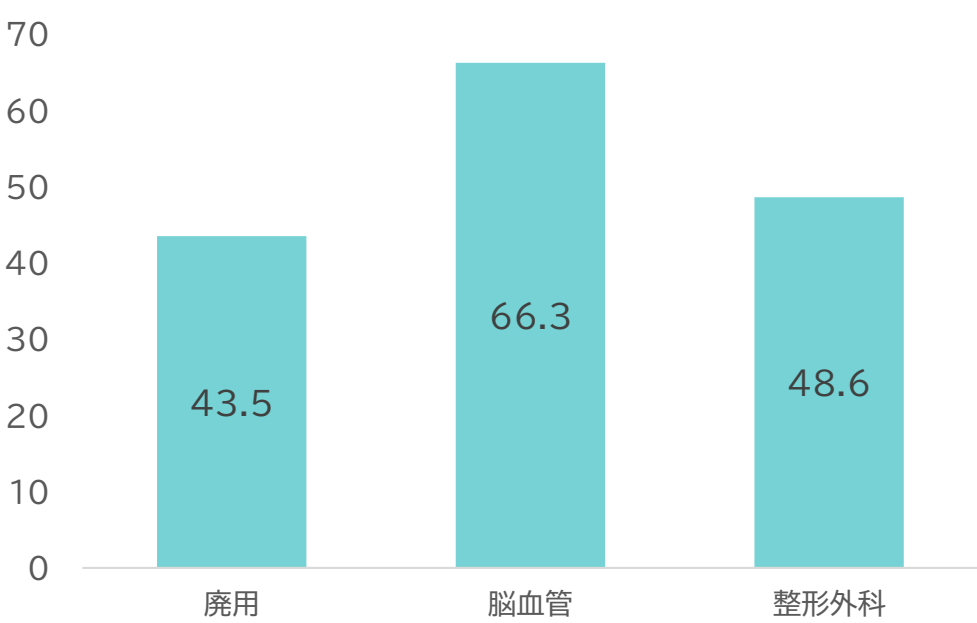


※1単位のリハビリ時間は20分です。

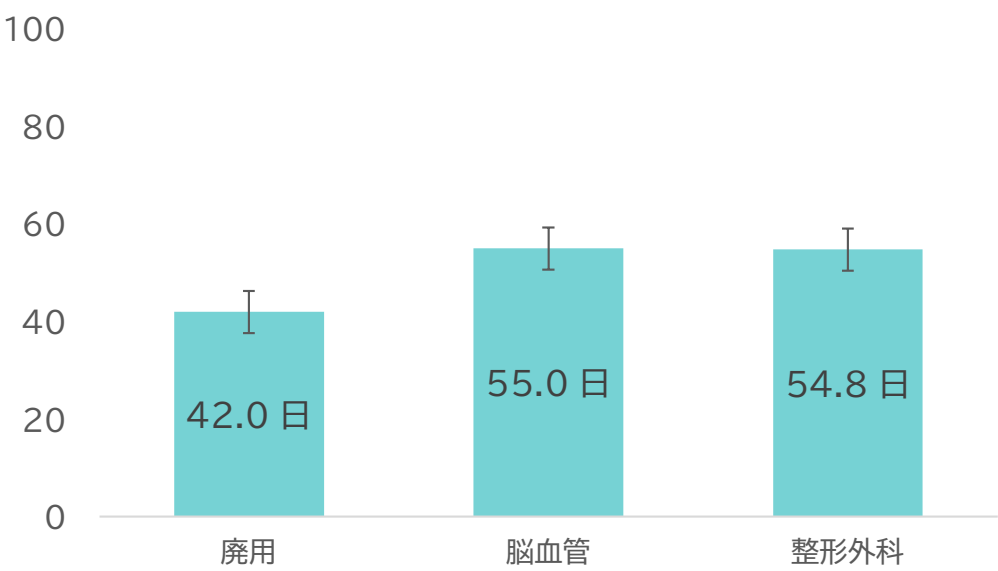
FIM運動項目利得



疾患別アウトカム実績指数



平均入院期間

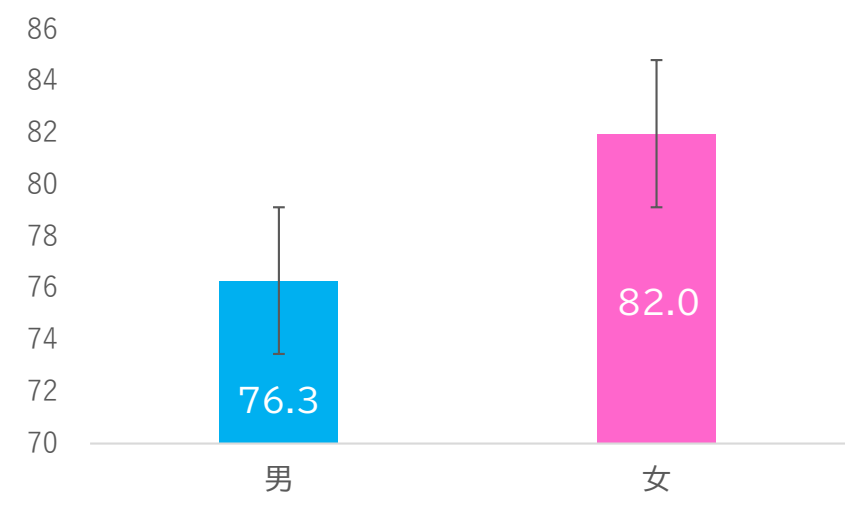


幅広い疾患に対応するリハビリ

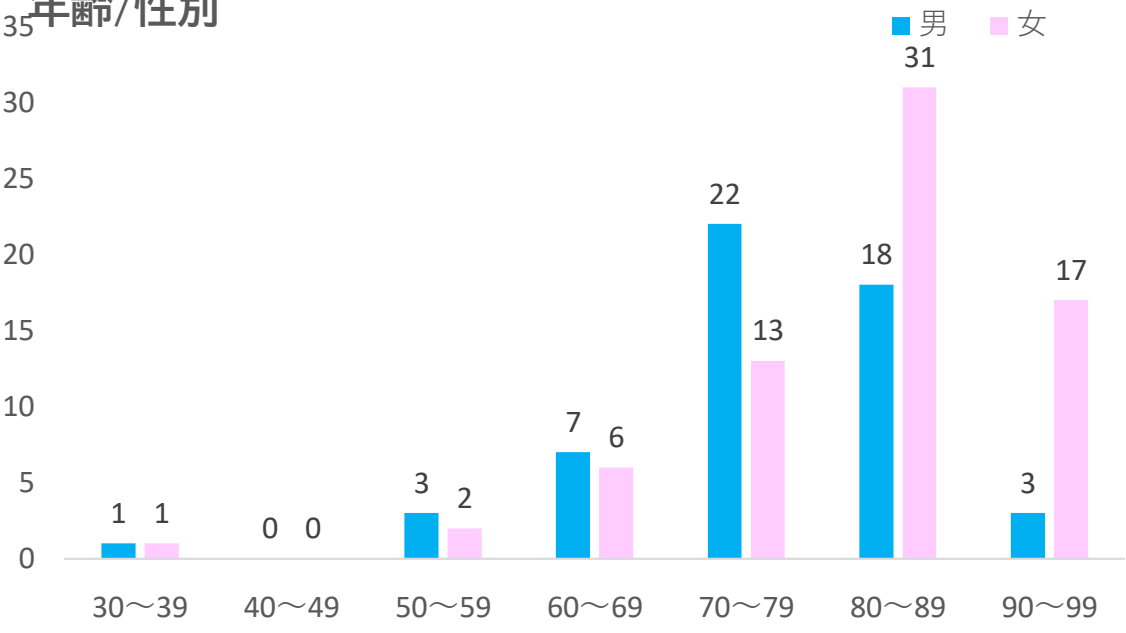
脳梗塞を始めとする脳血管疾患や大腿骨や脊椎の骨折による整形外科疾患、肺炎後・がん疾患の術後廃用症候群など幅広い疾患に対応しています。特に「がんリハビリテーション」の施設基準を取得、がんリハ研修修了者も多く在籍しています。一般病棟と入棟調整を行う事で手術侵襲を受けられた患者様も安心して回復期リハビリテーションを受けることができます。

⇒がんリハ研修修了のリハ職員19名（2022年7月24日受講者含む）

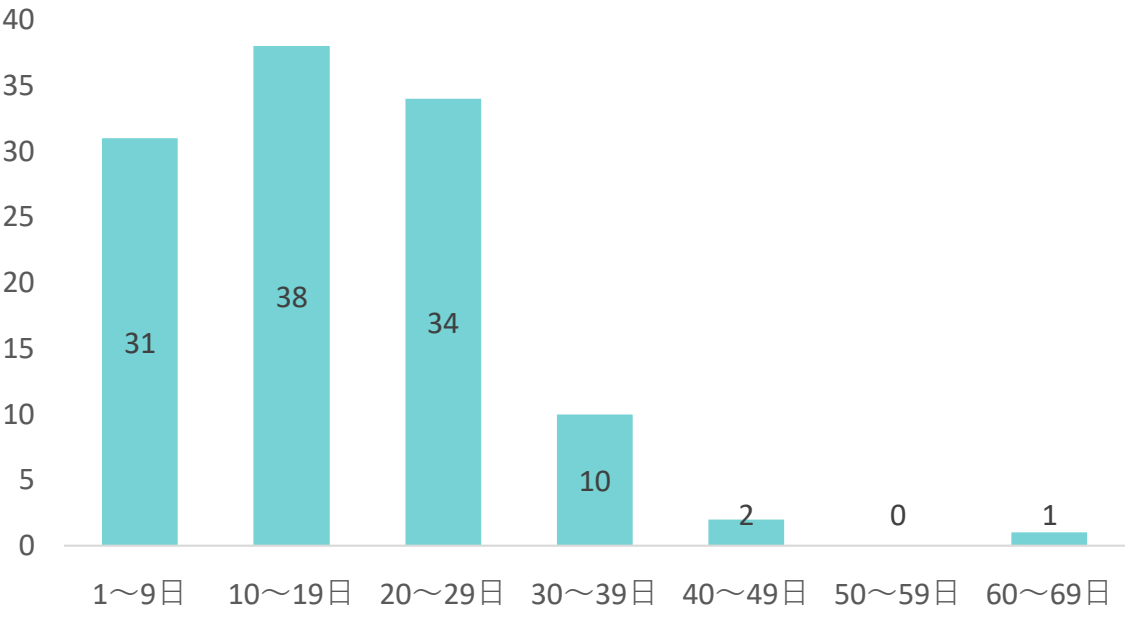
平均年齢/性別



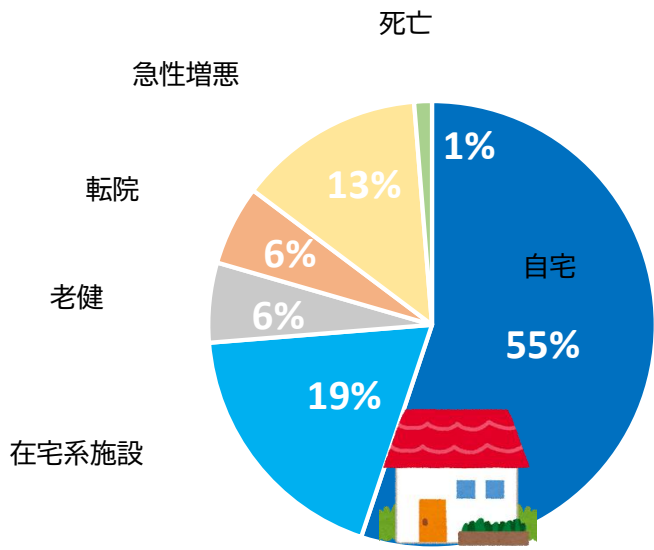
年齢/性別



発症から入棟までの期間



転帰先



人工透析患者に対するリハビリ

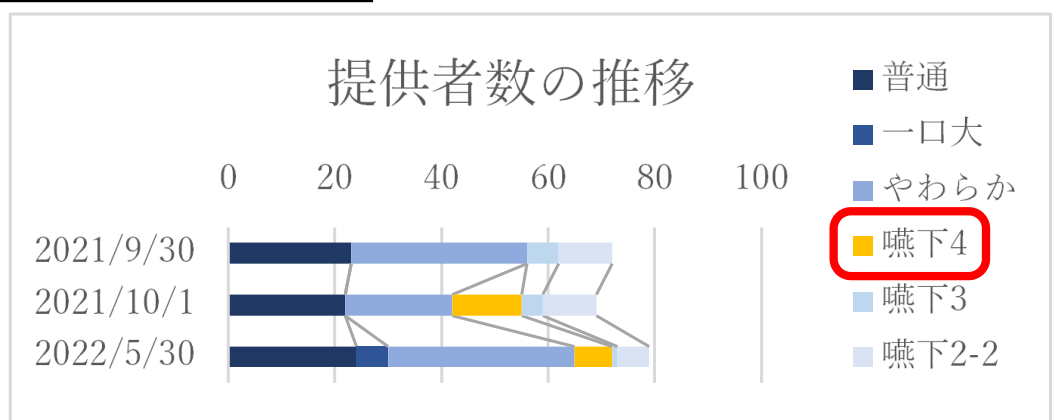
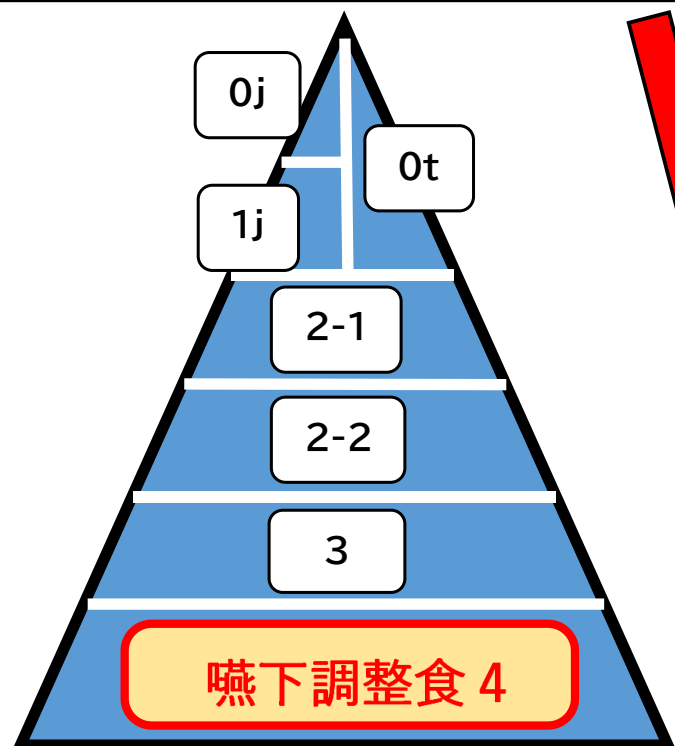
法人内に人工透析センターがあり、透析患者様へのリハビリテーションはリスク管理しながら実施可能です。人工透析患者は全身管理が難しい上に、時間的な制約も大きいため、県内でもまだまだ受け入れ施設が少ない状況です。

当院では透析患者にも平均4.64単位のリハビリを提供し、多職種によるチームアプローチで在宅復帰を目指しております。（2021年4月～2022年3月の退院患者29名の実績）

栄養部の取組み ～嚥下調整食4を導入しています～

嚥下調整食とは

2021年8月に日本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類2021が発表されました。嚥下調整食とは、摂食・嚥下障害者を対象とする、物性や食形態を重視した食事の総称で、摂食・嚥下機能の評価レベルに対応する嚥下訓練食、嚥下食、介護食の3つで構成されます。これらを段階的に使用することで、機能回復のためのリハビリテーションが可能になります。また、口から食べることで人間としての品位と尊厳を回復させる原動力になる食事でもあります。当院では従来、嚥下障害に対してやわらか食にトロミあんをかけるなど個別に対応しておりましたが、**2021年10月から嚥下調整食4を導入しています。**



導入時、18.8%の割合で嚥下調整食4を提供、その後誤嚥所見なく継続して提供を続けています。

※実際の嚥下調整食4の写真

ICTの活用について ～リハビリテーションの活力へ～



リハビリの進捗状況を共有し、今後の方針等を決定していく際のツールとしてICTの活用を進めています。実際にはリハビリテーションの様子を動画で撮影し、ご本人、ご家族に見て頂いたり、自宅での訪問指導の風景を同席できなかった遠方に住むご家族や事業所のスタッフに見てもらったり、ご家族の励まし、声掛け動画を撮影し、患者さんに見てもらったりなど様々なシーンでタブレットを活用しています。

またカンファレンスはZOOMなどのアプリを使用し、ご家族や介護事業所も自宅や職場からWEB上で参加して頂くなどしています。

入院中の患者さんご家族の面会の際には、iPadを活用したタブレット面会にも対応しています。ご家族様に来院して頂き、院内のタブレットにてFaceTimeを利用する方法と、ご家族の携帯電話やタブレットにて、ご自宅からFaceTime・LINEを利用して面会頂いております。感染症に配慮が必要な時期や、遠方のご家族、お仕事で都合で来院できない場合には積極的に活用いただいております。

タブレット面会の際は担当MSWや病棟スタッフが付き添い、リハビリ経過や入院生活の状況をお伝えしたり、今後のご意向についてお話し頂くなど貴重な時間となっています。